

令和5年度 札幌市 学校検尿検討委員会議事録（要旨）

日 時：令和6年3月7日（木） 午後7時00分～午後8時40分

会 場：札幌市教育委員会 4階 委員会会議室

出席委員：八十嶋委員長、佐野副委員長、荒木委員、岡本委員、長岡委員

事務局：近藤保健給食課長、山角保健指導担当係長、岩城職員

1 議事

(1) 令和5年度の学校検尿の報告

ア 事務局から、令和5年度の学校検尿について、下記の3点について報告した。

（ア） 令和5年度より学校検尿の方法が変更となった経緯

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学校を会場としていた以前の方法から、感染リスク等を踏まえたより持続可能な方法を模索し、全ての検査を検査機関で実施する方法に変更した。

（イ） 令和5年度学校検尿の具体的な検査の流れ

1次・2次検査は定性検査、2次精密検査として定量検査を実施。このうち、糖が陽性の場合、糖の定量検査に加えて、ケトン体の定性検査を行っている。

（ウ） 令和5年度学校検尿結果（会議開催日時点）

イ 委員から、事務局の報告に対して以下のような意見があった。

- ・学校検尿の結果と、医療機関を受診した結果のフィードバックを積み重ね、検尿システムの検討を続けることが必要。
- ・尿糖については、即受診勧奨を行うシステムが確立している。
- ・尿蛋白／クレアチニン値の測定は、重症度の判定に重要。今後の検討課題である。
- ・令和5年度より、判定基準に沿って自動的に判定することとなり、迅速に連絡がいくことになった点はよかった。
- ・既に管理中の児童生徒等の場合にも、学校検尿は勧めることとし、陽性の場合には受診勧奨を行わない等、工夫を行うとよい。
- ・かかりつけ医にも、学校検尿の結果データに触れられる機会があるとよい。
- ・学校検尿のよりよいシステムを検討する判断材料として、情報の整理、委員への事前共有が必要。

(2) 今後の学校検尿について

ア 事務局から、令和6年度、また令和7年度以降の学校検尿について、下記の5点について議題とした。

（ア） 1次検査陽性で検査が終了してしまった場合、受診勧奨が必要かどうか

（イ） 専門医療機関受診のお知らせ通知の文言について

- (ウ) 令和6年度専門医療機関一覧について
 - (エ) 令和7年度以降、各園・学校で2回目の検査において、1次検査の児童生徒等に対し、定量検査を行う方法とするかどうか
 - (オ) 令和7年度以降、尿検査の検査項目など、今後に向けて
- イ 委員から、以下のような意見があった。
- ・ 1回しか検査ができない場合の、基準が考えられるとよい。
 - ・ 1次・2次検査を行うために回収も含め対応するコストと、クレアチニン定量検査を加えることのコストでは、圧倒的に後者のほうが意義があるのではないか。
 - ・ 検査を検査機関で行うこととなったため、今後は1次検査の段階で、定性検査のあと定量検査を実施してはどうか。重症者を速やかに救うことができる可能性がある。
 - ・ 1次から定量検査を行い、検査が1回でもすぐ受診させるシステムがあれば、1回しか受けられなくてもよい。
 - ・ 今後、1次検査で定量検査を行うなど、効率がよいやり方で重症者を拾う方法を考えるにあたり、コストの面も含めた検討が必要。
 - ・ 専門医のお便りについては、事前に医療機関と情報が共有されていれば、色分けしていなくても対応できる。

- (3) 次回の学校検尿検討委員会開催時期について
令和6年8月末～9月に実施することとした。